

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立祥豊小学校 】

1 実践テーマ	I・III
2 実施対象者 (学年・人数)	4年 3クラス 58名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (総合的な学習の時間) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	車いすバスケットボールの体験や障がいを持つ方のお話を聞くことを通して、パラリンピックや障がいをもった方たちへの関心を高め、共に生きる社会や自分の生き方を考える機会とする。
5 取組内容	○事前学習 ・パラリンピック・車いすバスケットボールについて知る 国際パラリンピック委員会公認教材を活用し、パラリンピックについて親しみをもち、障がいや障がい者についての理解を深める。 ○当日の学習 ①はじめの挨拶、講師と選手の紹介 ②講師の方のお話 ・車いすの仕組みや操作方法 ・車いすバスケットボールの実演 ③車いす体験 ・前に進む、方向転換、後ろ向きに進む。 ④車いすバスケットボール体験 ・チーム対戦ゲーム ⑤選手のお話 ・車いすの生活になった経緯 ・車いすバスケットボールとの出会い ・これからの夢 ・子どもたちに伝えたいこと ⑥終わりの言葉

	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感想発表 ○事後学習 学んだことの振り返り（プリント）。 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツ・パラリンピックへの関心が高まり、他の障がい者スポーツへの興味や今夏の東京パラリンピックを見ることを楽しみにしている児童がいた。 ・車いすの体験を通して、車いすの生活の大変さを実感するだけでなく、ごみのポイ捨てをしない、決められた場所に自転車を駐輪するなど普段の生活で気をつけることについて意識することができた。 ・体に障がいを抱えても、仲間との出会いや周りの人の支えで自分のやりたいことができる子ども達は実感できた。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由参観日に実施したことで多くの保護者が参観し、活動に関心を持って見ていた。 ・事前に国際パラリンピック委員会公認教材を活用して、車いすバスケットボールやパラリンピックの種目について親しみをもたせた。また、総合的な学習の一環として、自分の生き方をつなげて考えられるように取り組んだ。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冬場を実施したため、選手の方のお話を聞く際、体操服だったので防寒具を用意しておく良かった。 ・トイレや部屋の入口の幅を見ても、車いすで移動することの大変さを感じ、校内のバリアフリー対応が十分ではないと分かった。 ・体験することで車いすバスケットボールの難しさや楽しさを知ることができ、選手の方に寄り添えた。この体験を生かし、誰もが住みやすい生活ができるように日々の生活の中で意識できるようにしていきたい。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>総合育成支援教育の視点から見ても、大変有意義な学習であるので、事業が次年度も継続されるのであれば校内に周知して取り組みたい。</p>